

首相改憲「在任中に」

「憲法破壊」の批判に挑戦

参院予算委

安倍晋三首相は2日の参院予算委員会で、明文改憲について「在任中に成し遂げたい」と述べ、任期中の実現に強い執念を表明しました。首相は「先の総選挙

でも訴えているわけだから、それを目指したい」とも述べました。民主党の大塚耕平氏への答弁。

首相の自民党総裁としての任期は2018年9月まで。安倍首相は年初から、夏の参院選挙で改憲を争点化する姿勢を示し、9条2

項の改定にも繰り返し言及しています。戦争法強行に国民からの立憲主義破壊などの厳しい批判に対して「改憲」で挑戦しようとするものです。憲法秩序を無視する権力者に、改憲を論ずる資格などありません。

首相は一方で、「わが党だけで発議に必要な衆参(両院)の3分の2を獲得することは不可能に近い」とも指摘。「与党、他の党の協力も頂かなければ難しい」との認識を示し、改憲勢力の拡大を目指す意向を強調しました。